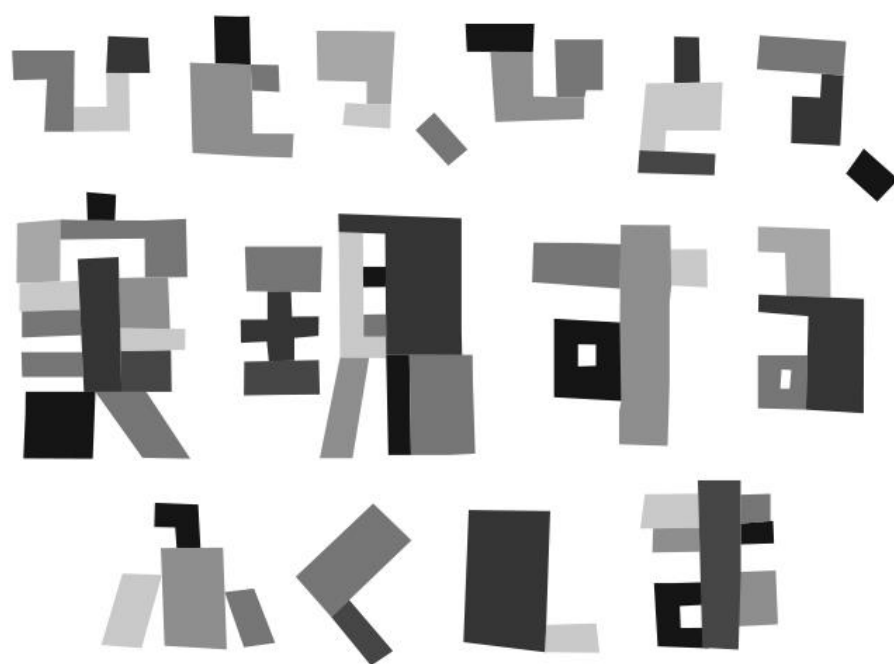


事業計画

令和6年度



福島県ハイテクプラザ

INDUSTRIAL TECHNOLOGY INSTITUTE FUKUSHIMA PREFECTURAL GOVERNMENT

福島県ハイテクプラザ事業計画

令和6年度

目 次

※ ㊦は「県の重点プロジェクト」、【新】は「令和6年度新規事業」

※ 以下「福島県ハイテクプラザ」を「ハイテクプラザ」という。

1	ハイテクプラザ組織と事業方針	1
1-1	ハイテクプラザ組織	1
1-2	ハイテクプラザ第Ⅲ期中期ビジョン【要約】	2
1-2-1	基本方針	2
1-2-2	ハイテクプラザの果たす役割	2
1-2-3	五年後の目指す姿	2
1-2-4	基本活動	2
2	事業計画概要	3
2-1	研究開発	3
㊦	【しごとづくりプロジェクト】関連事業（全1事業：2-1-1）	
2-1-1	【新】デジタル技術を活用したものづくり企業のスマート化支援事業	3
	（1）【新】デジタル技術高度化支援事業	
	① 通信障害に強い無線通信ネットワークの製造現場適用化研究	
㊦	【産業推進・なりわい再生プロジェクト】関連事業（全4事業：2-1-2～2-1-5）	
2-1-2	福島新エネ社会構想等推進技術開発事業	3
	（1）ハイテクプラザ再エネ技術高度化事業	
	① 風力発電ブレード部材の迅速耐久性評価と予知保全技術の開発	
	② 金属加工部材の水素・アンモニア利用環境適合性評価技術の確立	
2-1-3	【新】チャレンジふくしま「ロボット産業革命の地」創出事業	4
	（1）【新】ロボット制御技術等実証事業	
	① 【新】協働ロボットによる検査作業省力化の研究	
	② 【新】ドローン飛行空域の電磁環境調査とドローンの耐電磁特性評価	
	（2）ロボット部材研究開発事業	
	① バレル工具加工における切削力の調査	
	② 5軸マシニングセンタの工作精度測定法の確立と評価モデルの開発	
2-1-4	福島県オリジナル清酒製造技術の開発	4
	① 多様な清酒開発に向けた製麹技術基盤の構築	
2-1-5	【新】オールふくしまの酒づくり支援事業（農林水産部事業）	5
	（1）【新】県オリジナル酒米新品種開発事業	
㊦	【避難地域等復興加速化プロジェクト】関連事業（全1事業：2-1-6）	
2-1-6	廃炉関連産業集積基盤構築事業	5
	（1）廃炉関連産業技術支援体制基盤構築事業	

① 大型構造物の振動耐久性評価・設計改善技術の開発

【一般事業】

2-1-7	基盤技術開発支援事業	5
	Ⅰ 福島・いわき地域支援プロジェクト	
	(1) ふくしま繊維関連技術開発促進プロジェクト	
	① 編織物の物性評価データベースと予測システムの構築	
	(2) 化学プラント保全技術高度化プロジェクト	
	Ⅱ 個別研究課題	
	(1) 果樹剪定枝染の機械染色条件の確立	
	(2) 「青光塗」のための新規色漆の開発	
	(3) 切削加工品の代替としてのWAA M方式金属積層造形品の可能性 評価	
	(4) 【新】加工機上における形状評価の研究	
	(5) 【新】福島県産資源に由来する食品製造用微生物の探索	
	(6) 【新】漆の密着性に関する研究	
	(7) 【新】木製家具製作のためのC A E適用手法の開発	
2-1-8	産業廃棄物減量化・再資源化技術支援事業	6
	(1) 【新】動植物性残渣削減のための製造技術開発	
	① 【新】動植物性残渣の削減に向けた製造技術の開発と未利用資源 探索	
2-1-9	外部資金等活用研究事業	7
2-1-10	共同研究等	7
	① 【新】県産味噌の色調向上に関する加工方法および微生物技術の 開発	
	② 【新】県産果実（リンゴ、日本ナシ）の特徴を生かした果実酒製造	
<u>2-2</u>	<u>技術支援</u>	8
Ⓜ	【しごとづくりプロジェクト】関連事業（全2事業：2-2-1～2-2-2）	
2-2-1	開発型・提案型企业転換総合支援事業	8
	(1) ひとつ、ひとつ、実現するものづくり企業支援事業	
	① ハイテクプラザ巡回開発支援	
2-2-2	【新】デジタル技術を活用したものづくり企業のスマート化支援事業 (一部再掲)	8
	(1) 【新】デジタル技術導入支援事業	
	(2) 【新】地域産業の魅力向上支援事業	
	(3) 【新】デジタル技術高度化支援事業	
Ⓜ	【産業推進・なりわい再生プロジェクト】関連事業（全3事業：2-2-3～2-2-5）	
2-2-3	航空宇宙産業集積推進事業	9
2-2-4	【新】チャレンジふくしま「ロボット産業革命の地」創出事業 (一部再掲)	9
	(1) ふくしまロボット産業推進協議会事業	
	① 福島県廃炉・災害対応ロボット研究会運営事業	
2-2-5	放射能測定事業	9

④【避難地域等復興加速化プロジェクト】関連事業（全1事業：2-2-6）

2-2-6	廃炉関連産業集積基盤構築事業（一部再掲）	9
	（1）廃炉関連産業技術支援体制基盤構築事業	

【一般事業】

2-2-7	技術相談	9
2-2-8	依頼試験	9
2-2-9	施設・設備使用	9
2-2-10	技術移転	9
2-2-11	酵母開発・頒布	9
2-2-12	技術者研修・講習会等	10
2-2-13	講師派遣	10
2-2-14	機器整備	10
2-2-15	大学院との連携	10
2-2-16	放射光利活用推進事業	10

2-3 人材育成 10

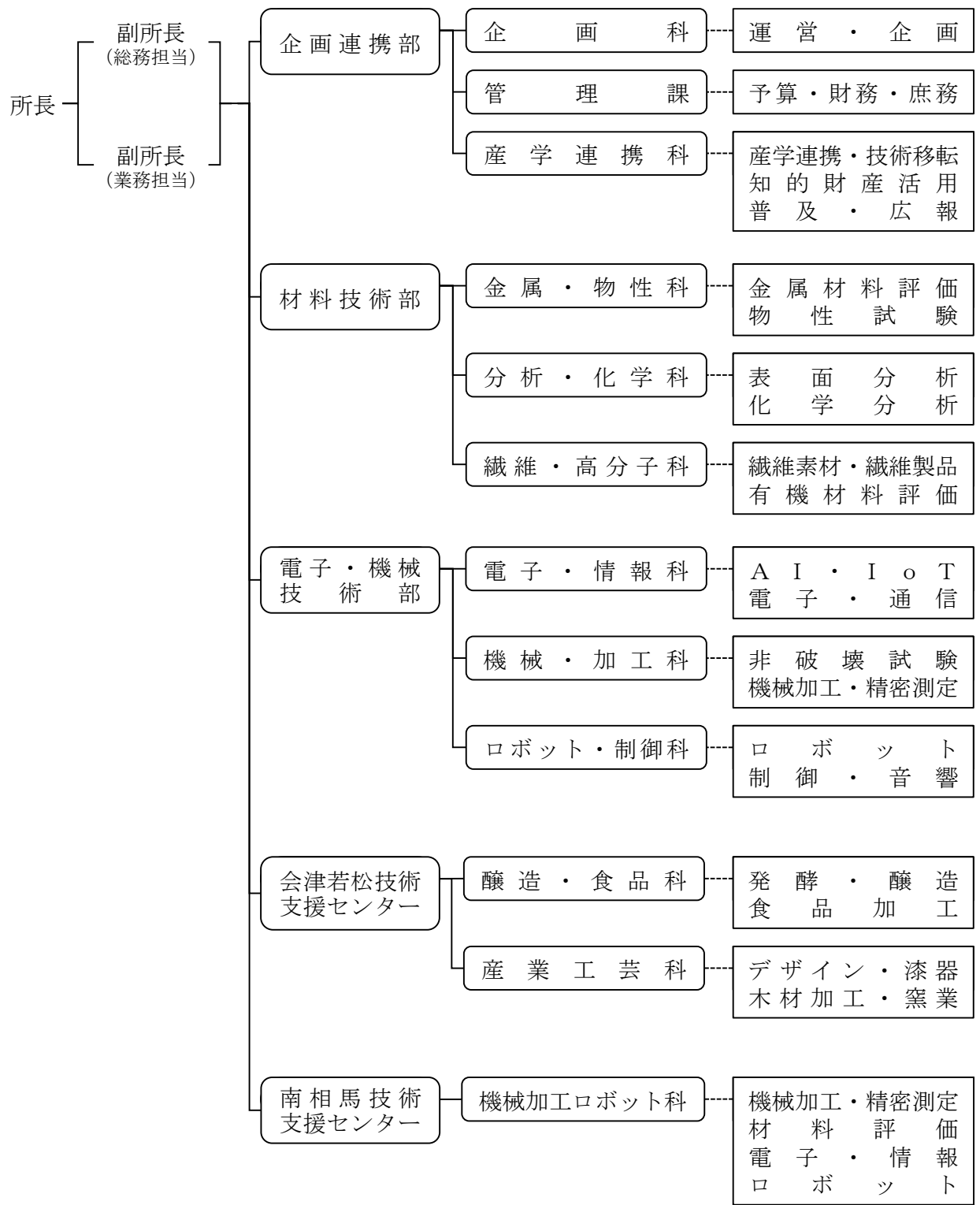
2-3-1	「そだてる研究室」事業	10
	（1）大学院博士課程派遣	
	（2）技術士等資格取得	
	（3）探究型研究開発	
	（4）企業等実地研修	

2-4 情報の収集と発信 11

2-4-1	研究成果発表会	11
2-4-2	研究会活動	11
2-4-3	地域との交流	11
2-4-4	インターンシップ（研修生）の受入	11
2-4-5	市町村等との連携	11
2-4-6	広報活動	11

1 ハイテクプラザ組織と事業方針

1-1 ハイテクプラザ組織



※再生可能エネルギー・水素導入、廃炉、航空宇宙、医療機器、環境・リサイクル等の分野は、部門横断型の支援対応を実施する。

1-2 ハイテクプラザ第Ⅲ期中期ビジョン【要約】

1-2-1 基本方針

ハイテクプラザの基本理念である「技術支援を使命とする開かれた産業支援機関」を実現すべく、「福島県ハイテクプラザ第Ⅲ期中期ビジョン」（令和4年度～令和8年度）に基づき、当所の果たす役割を遂行する。そのため、五年後の目指す姿に向かって機能強化を図り、4つの基本活動（「研究開発」、「技術支援」、「人材育成」、「情報の収集と発信」）に則った事業展開を行うことで、県内企業の技術支援をはじめとしたものづくり産業の技術的諸問題の解決に取り組む。

1-2-2 ハイテクプラザの果たす役割

「企業に対する技術支援、成長産業への先導」

「福島イノベーション・コースト構想や再生可能エネルギー・水素普及促進等、本県重点施策への貢献、地域に根ざした従来産業の振興」

「次代を担う技術者の育成」

「技術情報の収集と発信、企業と研究機関や支援機関との橋渡し」

1-2-3 五年後の目指す姿

- ① 多様な技術や急速な技術の進歩、変化にも素早く対応できる組織体制
- ② ロボット、再生可能エネルギー、水素等の成長産業においても県内企業を先導できる高い技術力
- ③ 県内ものづくり産業を支える企業技術者の育成拠点
- ④ 県内企業への技術情報の発信基地

1-2-4 基本活動

（1）研究開発

県の重点施策に沿った分野、基盤技術分野及び地域特有の基幹産業分野の研究開発に取り組み、企業に成果を移転する。

（2）技術支援

支援メニューである技術相談、依頼試験・設備使用、企業訪問等の取組みを強化し、これらの活動を通して企業の技術課題の解決を図る。

（3）人材育成

職員の技術支援力を強化するために、組織的な人材育成に取り組む。

（4）情報の収集と発信

最新の技術動向や鮮度の高い情報の収集に努めるとともに、それらの情報を企業目線でわかりやすく発信する。

詳細については、「福島県ハイテクプラザ第Ⅲ期中期ビジョン」（令和4年度～令和8年度）を参照。（<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/hightech/plan.html>）

2 事業計画概要

2-1 研究開発

㊦ 【しごとづくりプロジェクト】関連事業（全1事業：2-1-1）

2-1-1 【新】デジタル技術を活用したものづくり企業のスマート化支援事業

製造工程を可視化することで生産性や作業効率の向上を図るため、製造現場に適用可能な無線通信技術を検証し、県内企業等のデジタル技術活用の高度化を実現する。

(1) 【新】デジタル技術高度化支援事業

研究課題	研究内容
① 通信障害に強い無線通信ネットワークの製造現場適用化研究 (R4～R6)	長距離通信可能で電波遮蔽や干渉に強い920MHz特定小電力無線(LPWA)を用いて、製造現場で容易に利用できる無線通信ネットワークを構築する。また、これを実際の製造現場に導入し、機能検証を行う。

㊦ 【産業推進・なりわい再生プロジェクト】関連事業

(全4事業：2-1-2～2-1-5)

2-1-2 福島新エネ社会構想等推進技術開発事業

福島新エネ社会構想の実現に向け、県内企業等の有する要素技術の高度化を支援する目的で、再生可能エネルギーに関する製品開発や技術の実用化に向けた研究開発を関係機関と連携して実施する。

(1) ハイテクプラザ再エネ技術高度化事業

研究課題	研究内容
① 風力発電ブレード部材の迅速耐久性評価と予知保全技術の開発 (R4～R6)	風車ブレード部材の劣化メカニズムを解明し、耐久性を短時間で評価する試験方法を確立するとともに、非破壊検査データと紐づけた予知保全技術の開発を行い、県内メンテナンス産業の振興を図る。
② 金属加工部材の水素・アンモニア利用環境適合性評価技術の確立 (R5～R7)	金属材料の過酷環境適合性を実験室レベルで短時間に評価する技術を確立し、県内企業が開発する金属加工品の脱炭素関連製品への採用を後押しする。

2-1-3 【新】チャレンジふくしま「ロボット産業革命の地」創出事業

震災からの産業復興のため、次世代の新たな産業分野であるロボット産業の集積を目指し、ハイテクプラザにおいて、ロボットの要素技術開発を実施する。

(1) 【新】ロボット制御技術等実証事業

研究課題	研究内容
① 【新】協働ロボットによる検査作業省力化の研究 (R 6～R 8)	製造現場における検査工程の省力化・自動化を実現するため、画像処理・AI技術と協働ロボットの制御技術を連携した検査システムの開発を行う。また、ハイテクプラザの協働ロボットを活用した曲面形状部品の検査ラインを構築し、実証実験を行う。
② 【新】ドローン飛行空域の電磁環境調査とドローンの耐電磁特性評価 (R 6～R 8)	空域の電磁環境の調査及びドローンの耐電磁性を評価し、電磁環境内でドローンが障害を受けずに飛行するための要件を明らかにすることで、電波障害対策の指標を確立する。

(2) ロボット部材研究開発事業

研究課題	研究内容
① バレル工具加工における切削力の調査 (R 5～R 6)	アルミニウム合金を対象にバレル工具を使用した加工実験を行い、加工時に発生する切削力を調査する。調査結果を基にびびり振動等の問題が発生しにくい加工条件を探索する。
② 5軸マシニングセンタの工作精度測定法の確立と評価モデルの開発 (R 5～R 7)	県内企業に導入が進む5軸マシニングセンタを対象とし、日本産業規格の中で明示されていない工作精度試験の加工条件について検討する。また、従来の試験片では評価できない誤差要因を明らかにするため、新たな評価用モデルを開発する。

2-1-4 福島県オリジナル清酒製造技術の開発

県産清酒をブランド化し、維持・発展させるため、県産資源（県オリジナル清酒酵母、県オリジナル酒造好適米）を活用した県産清酒の製造技術を開発する。

研究課題	研究内容
① 多様な清酒開発に向けた製麹技術基盤の構築 (R 5～R 7)	県内酒造業者が目指す酒質に合わせた麴の造り分けや麴を用いて特徴的な香味の付与をするためのノウハウを蓄積させた技術情報ツールを完成させ、県内酒造業者の多様な新製品開発を実現する。

2-1-5 【新】オールふくしまの酒づくり支援事業（農林水産部事業）

(1) 【新】県オリジナル酒米新品種開発事業

福島県農業総合センターで育種された酒造用有望系統について、酒米分析や試験醸造により酒造適性に優れた品種を選抜することで、県外産の酒米に替わる福島県オリジナル酒造好適米品種を早急に開発する。

さらに、新品種で品質の高い清酒を醸造できるように、吸水性や消化性などの酒造特性を詳細に把握して新品種の醸造方法を確立する。

④ 【避難地域等復興加速化プロジェクト】関連事業（全1事業：2-1-6）

2-1-6 廃炉関連産業集積基盤構築事業

県内企業が廃炉関連産業に参入するための技術力を身に着けるため、ハイテクプラザで技術開発を行い、県内企業に技術移転を図る。

(1) 廃炉関連産業技術支援体制基盤構築事業

研究課題	研究内容
① 大型構造物の振動耐久性評価・設計改善技術の開発 (R5～R7)	廃炉分野で求められる大型機械構造物を対象にシミュレーション(CAE)による設計と試作品の実験評価を組み合わせ、実大製品の振動特性・耐久性を正確に予測し、設計改善する技術を開発する。

【一般事業】

2-1-7 基盤技術開発支援事業

震災からの復興やグローバル化などの課題に直面している地域産業の振興のため、地域特有のニーズに合わせたきめ細かな支援を実施するとともに、先導的技術や独自技術の開発等に取り組み、研究成果を技術移転する。

I 福島・いわき地域支援プロジェクト

(1) ふくしま繊維関連技術開発促進プロジェクト

研究課題	内容
① 編織物の物性評価データベースと予測システムの構築 (R4～R6)	設計の段階で試作しなくても編織物の物性値を予測できるシステムを構築することで、市場が求める保温性や通気性等の物性値を持つ編織物の開発に係るコストや試作に係る期間の削減を図る。

(2) 化学プラント保全技術高度化プロジェクト

いわき地域に集積する化学プラントの保守・修繕の需要増加に地元企業が対応できるように、溶接技術や評価技術等の技術力向上を図る人材育成や企業間ネットワークを構築する。

II 個別研究課題

研究課題	研究内容
(1) 果樹剪定枝染の機械染色条件の確立 (R 5～R 6)	果樹剪定枝等から染色液を効率良く製造する技術と、ハイテクプラザの設備（繊維熱処理・染色加工装置）を用いた染色加工条件を確立する。確立した技術を繊維関連企業に技術移転することで、剪定枝染色製品の開発促進に繋げる。
(2) 「青光塗」のための新規色漆の開発 (R 5～R 7)	会津漆器では江戸期から明治期にかけて、石黄（黄色）と藍（青色）を漆に混合して塗装した「青光塗」製品が製造されていたが、現在は行われていない。職人が手に入れやすく安全な材料を選定し、青光塗の復活を目指すとともに、新たな製品の開発促進に繋げる。
(3) 切削加工品の代替としてのWAAM方式金属積層造形品の可能性評価 (R 5～R 6)	WAAM方式金属積層造形の特徴である既存部品への形状付加及び異種金属接合を用い、切削加工品の代替として利用可能な積層造形品、特に異種金属接合による高付加価値を有する積層造形品の作製技術の構築を行う。
(4) 【新】加工機上における形状評価の研究 (R 6～R 7)	県内企業に普及が進む高機能な加工機の機上計測機能による形状評価の手法、精度及び課題について、ハイテクプラザの5軸マシニングセンタで検証し、企業の加工現場におけるマシニングセンタの精密加工や工程集約への活用を後押しする。
(5) 【新】福島県産資源に由来する食品製造用微生物の探索 (R 6～R 8)	県内の豊かな資源（農産物・水産物・水源・草花等）から食品製造に利用可能な微生物を探索・選抜して一覧化することで、県内食品製造業者における利活用を推進する。
(6) 【新】漆の密着性に関する研究 (R 6～R 7)	漆と各種材料の剥離強度を表面切削装置（SAICAS）で定量的に評価するとともに、漆の塗布方法と剥離強度の関係を明らかにし、各種材料に対する最適な塗布方法を提案することで製品の開発促進に繋げる。
(7) 【新】木製家具製作のためのCAE適用手法の開発 (R 6～R 8)	木製家具の強度をコンピュータ上でシミュレーション（CAE）により計算する手法を確立することで、必要な強度を狙って設計できるようになるほか、強度不足による再設計が減ることで製品開発期間を短縮し、木材加工業界の振興に貢献する。

2-1-8 産業廃棄物減量化・再資源化技術支援事業

産業廃棄物対策をはじめとした循環型社会の構築のため、産業廃棄物排出事業者に技術面からの支援を行うことにより、産業廃棄物減量化・再資源化を図る。

(1) 【新】動植物性残渣削減のための製造技術開発

研究課題	研究内容
① 【新】動植物性残渣の削減に向けた製造技術の開発と未利用資源探索 (R 6)	原料米の精米により生じる米糠の削減と高品質な清酒製造を両立するための技術開発を行う。また、食品製造で発生する果実皮等の加工残渣について、食品製造、堆肥等に再利用するための成分分析や課題調査を行う。

2-1-9 外部資金等活用研究事業

企業における事業化を促進するため、企業等からの委託や競争的資金制度などの外部資金等の活用により、ハイテクプラザが研究を実施し、研究成果の技術移転を図る。

2-1-10 共同研究等

ハイテクプラザが大学等研究機関や県内企業等と共同で産業振興に寄与する研究開発を行い、複雑化・高度化し、多分野にわたる新技術の開発や技術的課題の解決を図ることで、製品化・技術の導入に繋げる。

研究課題	研究内容
① 【新】県産味噌の色調向上に関する加工方法および微生物技術の開発 (R 6～R 8)	味噌色調に影響する大豆の蒸煮温度、時間、圧力の最適条件及び優良な味噌用乳酸菌を分離し、褐色原因のメイラード反応を抑制する最適仕込み方法を検討することで、鮮やかな色調を持つ県産味噌の製造方法を確立する。
② 【新】県産果実（リンゴ、日本ナシ）の特徴を生かした果実酒製造 (R 6～R 7)	県産果実（リンゴや日本ナシ）の果実酒製造に向けた品種特性や発酵特性に関する評価を行うことで、県産果実の新たな加工用途を開発する。また、県内果実酒製造者に成果を普及することで、県産果実の特徴を生かした果実酒製造を推進する。

2-2 技術支援

㊦ 【しごとづくりプロジェクト】関連事業（全2事業：2-2-1～2-2-2）

2-2-1 開発型・提案型企业転換総合支援事業

(1) ひとつ、ひとつ、実現するものづくり企業支援事業

① ハイテクプラザ巡回開発支援

県内企業等の技術課題解決及び製品開発について、技術指導等の支援を行うことで企業競争力の強化を図る。

取組	内容
ア 企業発掘	企業訪問等により、開発意欲のある企業を発掘するとともに、技術課題の抽出及び解決を図る。
イ 開発支援	企業が直面している技術的課題をハイテクプラザが代わりに解決し、その成果を技術移転することで企業の製品開発を支援する。
ウ 現場支援	企業の抱える技術的課題解決のため、企業の製造現場に職員・外部講師を派遣し又はハイテクプラザに企業の従業員を受入れ、人材育成等を支援する。

2-2-2 【新】デジタル技術を活用したものづくり企業のスマート化支援事業

(一部再掲)

スマート化実証ラボを活用したデジタル技術活用に向けた技術的なサポートやトレーニング、セミナーによる普及啓発、専門家による助言・指導を行い、企業へのデジタル技術導入を促進する。

事業	内容
(1) 【新】デジタル技術導入支援事業 (R6～R8)	セミナーによる普及啓発や専門家による助言・指導、コーディネータによる企業訪問、ワークショップによる製造現場の課題解決策の検討等を行うことで、デジタル技術導入のモデル企業を創出し、県内ものづくり企業のスマート化を支援する。
(2) 【新】地域産業の魅力向上支援事業 (R6～R8)	醸造分野において、日本酒品質の高度化及び安定化を図るため、温度等を管理するIoTセンサを開発し、県内酒造りへのデジタル技術導入を促進する。また、伝統工芸分野等の地域産業のデジタル技術導入についても支援する。
(3) 【新】デジタル技術高度化支援事業 (R6～R8)	ハイテクプラザが運営するふくしまAI・IoT技術研究会において、スマート化実証ラボを活用したデジタル技術活用に向けた技術的なサポートやトレーニングを行う。また、AI・IoT試作キットを開発し、製造現場への試験導入を行う。

㊦【産業推進・なりわい再生プロジェクト】関連事業

(全3事業：2-2-3 ~ 2-2-5)

2-2-3 航空宇宙産業集積推進事業

今後の成長が見込まれる航空宇宙産業への県内企業の参入を支援・促進するとともに、蓄積した技術・製品を当該分野に展開するため、「福島県航空・宇宙産業技術研究会」を運営し、技術セミナー、情報提供等を実施する。また、ハイテクプラザに導入した非破壊検査機器、5軸加工機等を使用した研修を実施する。

2-2-4 【新】チャレンジふくしま「ロボット産業革命の地」創出事業

(一部再掲)

(1) ふくしまロボット産業推進協議会事業

① 福島県廃炉・災害対応ロボット研究会運営事業

原子力発電所の廃炉関連産業への県内企業等の参入を支援・促進するとともに、蓄積した技術・製品を災害対応分野に展開するため、「福島県廃炉・災害対応ロボット研究会」を運営し、展示会、技術セミナー等により関連機関との情報交換やネットワーク構築に取り組む。

2-2-5 放射能測定事業

風評被害への対応として、県内企業等を対象に工業製品の放射線量測定と加工食品の放射能測定を行い、検査に伴う事業者の負担軽減、検査の迅速化及び検査頻度の向上を図る。

㊦【避難地域等復興加速化プロジェクト】関連事業 (全1事業：2-2-6)

2-2-6 廃炉関連産業集積基盤構築事業 (一部再掲)

(1) 廃炉関連産業技術支援体制基盤構築事業

県内企業が廃炉関連産業の参入に必要な技術力の向上や人材の育成を図るため、巡回訪問やセミナー開催により、技術支援に取り組む。

【一般事業】

2-2-7 技術相談

県内企業等が抱える課題等に対して、個別面談、電話、メール、ウェブ相談窓口及びインターネットを利用したオンラインでの面談を活用して、技術相談に対応する。

2-2-8 依頼試験

県内企業等の依頼に応じ、各種の試験・分析を行い、迅速かつ正確な試験結果を提供する。

2-2-9 施設・設備使用

ハイテクプラザが保有する先端機器をはじめとした装置・機器類を県内企業等に対して開放する。

2-2-10 技術移転

ハイテクプラザが保有する技術や研究開発の成果を学会誌等への論文投稿や各種展示会への出展等により広く公開するとともに、企業訪問や各種広報活動により県内企業等に周知・提供し、新たな製品開発や技術課題の解決に繋げる。

2-2-11 酵母開発・頒布

県内企業等が使用する酵母について、ハイテクプラザ会津若松技術支援センターが研究・開発を行い、醸造に適した活性を持つ酵母を頒布する。

2-2-12 技術者研修・講習会等

(公財)福島県産業振興センター等と連携し、県内企業等を対象とする先端技術の普及をはじめとした研修・講習会を企画・開催する。

2-2-13 講師派遣

県内市町村の商工団体、産業支援機関等で実施している技術研修に講師として派遣し、講義・実習等を行う。

2-2-14 機器整備

企業の新産業分野への参入促進に必要な先端機器や製品開発段階で必要となる設備を計画的に導入・更新することで、技術支援、依頼試験、施設・設備等の開放、試験研究等の機能強化を図る。

2-2-15 大学院との連携

(大) 福島大学等の県内大学において、客員教授等として大学院生の教育研究指導にあたる。

2-2-16 放射光利活用推進事業

県内企業の放射光施設利活用を促進するため、(大) 福島大学の放射光利用プロジェクト研究所に参画し、県内企業の利用に向けた連携・支援を行う。また、職員の放射光施設利活用スキルの向上と他公設試、大学等とのネットワーク形成を目的に技術課題解決の事例創出と共有を図る。

2-3 人材育成

2-3-1 「そだてる研究室」事業

技術支援機能の維持・強化を図るため、職員の技術力や指導力の向上に取り組む。

(1) 大学院博士課程派遣

先導的な研究や高度な技術指導に対応できる専門性の高い職員を育成するため、大学院博士課程に職員を派遣する。

(2) 技術士等資格取得

高い技術水準を有する職員を育成するため、技術士等資格の取得を推進する。

(3) 探究型研究開発

研究経験の少ない若手職員の研究能力向上を図るため、比較的短時間で小規模に取り組める課題を対象に提案から実施、報告の一連の流れに若手職員が主体的に取り組む。

(4) 企業等実地研修

現場課題に即した支援に必要な企業視点を養うため、県内工場等の生産現場や開発現場に職員を派遣し、視察・体験を通して現場への理解を深める。

2-4 情報の収集と発信

2-4-1 研究成果発表会

令和5年度に取り組んだ研究や支援事例について、研究成果発表会を開催し、その成果を広く県内企業等に普及・周知する。

2-4-2 研究会活動

ものづくり基盤技術のうち、技術の高度化が著しい分野を中心として研究会を開催し、新技術の情報収集や技術勉強会、課題討論等を行う。

2-4-3 地域との交流

次世代を担う若年世代を対象にハイテクプラザの知見や設備を活用した教室を開催し、当所の役割や機能について理解を深めてもらうことによって、将来の理系人材育成に貢献する。

2-4-4 インターンシップ（研修生）の受入

県が実施する大学等の学生向けインターンシップのほか、県内の高等学校等の生徒に対してハイテクプラザの業務に関する研修や就業体験を行う。

2-4-5 市町村等との連携

県内市町村、商工団体及び産業支援機関に対し、ハイテクプラザが実施する事業の情報を提供するとともに、市町村等と連携して企業等が抱える技術的課題の解決を目指す。

2-4-6 広報活動

各種団体によるイベントへの参加、視察見学対応、インターネットをはじめとする様々な広報媒体により、ハイテクプラザの認知度のさらなる向上及び利用企業数の拡大を図る。

福島県ハイテクプラザ事業計画 令和6年度（2024年度）

令和6年3月発行

U R L <https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/hightech/>

E-Mail hightech-renkei@pref.fukushima.lg.jp

発行

福島県ハイテクプラザ（郡山本部）

〒963-0297 郡山市待池台1丁目12番地

代 表	024-959-1741
企 画 科	024-959-1736
管 理 課	024-954-4968
産 学 連 携 科	024-959-1741
金 属 ・ 物 性 科	024-959-1737
分 析 ・ 化 学 科	024-959-1738
繊 維 ・ 高 分 子 科	024-959-1739
電 子 ・ 情 報 科	024-954-4961
機 械 ・ 加 工 科	024-954-4962
ロ ボ ッ ト ・ 制 御 科	024-954-4963
F A X	024-959-1761

福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センター

〒965-0006 会津若松市一箕町大字鶴賀字下柳原88番1

代 表	0242-39-2100
醸 造 ・ 食 品 科	0242-39-2977
産 業 工 芸 科	0242-39-2978
F A X	0242-39-0335

福島県ハイテクプラザ南相馬技術支援センター

〒975-0036 南相馬市原町区萱浜字新赤沼83番

代 表	0244-25-3060
機 械 加 工 ロ ボ ッ ト 科	0244-25-3060
F A X	0244-25-3061

編集

福島県ハイテクプラザ 企画科